

―なぜいま必修化か。中嶋 冷戦体制が崩壊した1990年代初頭からグローバル化が急速に進んだ。今後さらに情報の受信も発信も多くなる。私自身は英語系土著者ではないが、一歩、国際社会に出るコミュニケーション



国際教養大理事長・学長。前東京外国語大学学長。中央教育審議会外国語専門部会主査。専門は国際関係論、現代中国学。69歳。

ヨンの道具は英語。最低限の理解や伝達ができる英語力が、一般国民にも必要なのは明白だ。10年前、20年先も日本人が英語でコミュニケーションできない教育を続けるなら、歴史的な損失になる。―それでも中学校からで

国家戦略と位置づけて

中嶋 十分という考え方があ。中嶋 情操教育や語学教育は、頭脳が柔軟なうちに

必要もある。9歳までが最適だ。中学は遅い。本当は幼児からがいい。すなわち、割

以上は公立小学校で何らかの英語教育を行っている。体系的でよいと混雑が広がり、格差が出る。発達段階を考えると、低学年は特別活動、中学年は従来の総合学習の時間を使い、高学年は「教科」がいいと私は思う。

―今まで何が変わる、

問題が誰が教え、その費用をどう負担するかなど、条件整備。

中嶋 韓国、タイなどアジア諸国もすでに小学校で英語を導入している。そのアジア諸国に母語の構造が異なる日本もさかたには国家戦略として取り組むべきだ。文部科学省が準備してやるべきことではない。もう決めたら徹底的に条件整備が必要だ。

―外国語指導助手(ALT)の量や質の問題もある。中嶋 ALTは行けど足りない。社会全体が教育にかかわらなければ、国を愛するということが必要。教員の研修も必要だし、教員に英語の試験も課すべきだが、地域社会、英語の達者な人間とすることも含めて社会作り直しだ。地方分権の時代だから、

自治体での工夫も必要だ。―国語力を優先すべきだという意見が必ず出る。中嶋 英語力と国語力は相関関係にある。英語の時間を増やしたら国語がなげくなるというのでは、あいませんか。国語力低下の原因は日本社会全体の言葉の軽視にある。小学校の国語の時間を増やしたら、国語力が上がるという保証はあるだろうか。英語を学んで、日本語のまが逆になっちゃうとある。

―国語力養成と結びつけるのは、例えばこんなことか。中嶋 時の朗読や名文の暗唱、英語も暗記と暗唱が肝要だ。こうして異文化理解を養

て反対だ」という大津氏では、立場が180度違う。小学校の英語教育を巡る議論は百家争鳴で、最終的には政治的な判断しかない。本格的に取り組むなら、費用効果も見極めたい。

―現状をどうすれば、大津 総合的な学習の時間だから、言葉の感性を養う教育はできる。推進派は教科化が最終目標だろうが、効果が上がらないと混乱を引き起こすことは間違いない。その間に教育を受ける小学生は被害者だ。小学校で英語をやると、英語嫌いになっ子供がずいぶん出てくる。先生たちが困っている。―「とにかく、私は東京に住んでいます。リンゴが好きです」と決まり文句の会話をしても、その先が読めない。言葉を使えるというのが創造的なことだ。それが保証されない言語教育は意味がない。

陣論 論客

文部科学省の中央教育審議会外国語専門部会が、小学5年からの英語の必修化を提言した。4、5年先には実現の可能性が高まった。期待も大きい。が、課題も少なくない。

聞き手・解説部 中西茂

小学校的英語 現在でも「総合的な学習の時間」などを使って93・6%の公立小が取り組む。部会の提言は、小学校高学年で週1回程度、共通の教育内容が必要としたい。当面は預託のように、担任と外国語指導助手(ALT)などのチーム・ティーチングが基本。数字で評価される「教科」化は今後の課題として、道德の土壌に「領域」という位置づけも選択肢にあてたい。

今回の提言は、必修化に向けた急務の第一歩だ。「国家戦略として位置づけたい」と中嶋氏と「教える体制を整備せよ」と

割りと与えられる時間、教員の研修、クソの規模。そして何より、英語と国語教育を有機的に連携させた。小学校では、母語と比べる対象として外国語に触れるのはいいが、英語の特別扱いの問題。日本文化も英語文化も特別な存在じゃないと理解させることが重要だ。

―中教監の報告に通じる部分だ。大津 一番重要なのは、小学校に英語を導入しても、

―「とにかく、私は東京に住んでいます。リンゴが好きです」と決まり文句の会話をしても、その先が読めない。言葉を使えるというのが創造的なことだ。それが保証されない言語教育は意味がない。

―現状をどうすれば、大津 総合的な学習の時間だから、言葉の感性を養う教育はできる。推進派は教科化が最終目標だろうが、効果が上がらないと混乱を引き起こすことは間違いない。その間に教育を受ける小学生は被害者だ。小学校で英語をやると、英語嫌いになっ子供がずいぶん出てくる。先生たちが困っている。―「とにかく、私は東京に住んでいます。リンゴが好きです」と決まり文句の会話をしても、その先が読めない。言葉を使えるというのが創造的なことだ。それが保証されない言語教育は意味がない。

大津 私が所属する慶応でも、かなり早い段階からやっている。体制も充実している

大津 私が所属する慶応でも、かなり早い段階からやっている。体制も充実している



慶応大言語文化研究所教授。日本英語学会理事。専門は言語の認知科学。「小学校での英語教育は必要か」の編著者。58歳。

が、大学に求て突出して英語ができるわけではない。―体制が不十分だから反対ではないのか。

大津 条件整備がされても、小学校からの導入は、いい値は生まれない。韓国がやっているからというのも安直な発想。韓国では、英語熱が

下げるという発想はないか。大津 そのために小学校で英語を教える教員を育てるのは時間もエネルギーもかかる。入門期の外国語指導者は

大津 一番重要なのは、小学校に英語を導入しても、

―「とにかく、私は東京に住んでいます。リンゴが好きです」と決まり文句の会話をしても、その先が読めない。言葉を使えるというのが創造的なことだ。それが保証されない言語教育は意味がない。

大津 一番重要なのは、小学校に英語を導入しても、

―「とにかく、私は東京に住んでいます。リンゴが好きです」と決まり文句の会話をしても、その先が読めない。言葉を使えるというのが創造的なことだ。それが保証されない言語教育は意味がない。

大津 一番重要なのは、小学校に英語を導入しても、

大津 一番重要なのは、小学校に英語を導入しても、

大津 一番重要なのは、小学校に英語を導入しても、

中学以降の支援充実を

―すなわち、公立小学校の9割以上で何らかの英語活動をやっているが、大津 実際はやっていない時間が多い。保護者の期待が大きいが、必修化が何を意味するかが、わかりやすく伝えら

れていないのではないかと、小学校教育全体にどう影響が出るか。新たなものを入れれば何か削減される。それが教えるか、多くの人は担任が教えると思っていない。―私立小学校の英語教育には歴史がある。

大津 私が所属する慶応でも、かなり早い段階からやっている。体制も充実している

大津 私が所属する慶応でも、かなり早い段階からやっている。体制も充実している

大津 私が所属する慶応でも、かなり早い段階からやっている。体制も充実している

大津 私が所属する慶応でも、かなり早い段階からやっている。体制も充実している

大津 私が所属する慶応でも、かなり早い段階からやっている。体制も充実している

大津 私が所属する慶応でも、かなり早い段階からやっている。体制も充実している

大津 私が所属する慶応でも、かなり早い段階からやっている。体制も充実している

大津 私が所属する慶応でも、かなり早い段階からやっている。体制も充実している

大津 私が所属する慶応でも、かなり早い段階からやっている。体制も充実している

大津 私が所属する慶応でも、かなり早い段階からやっている。体制も充実している

大津 私が所属する慶応でも、かなり早い段階からやっている。体制も充実している

大津 私が所属する慶応でも、かなり早い段階からやっている。体制も充実している

大津 私が所属する慶応でも、かなり早い段階からやっている。体制も充実している